



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

84

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

中町二丁目にて

この作品は、中町2丁目の井ノ頭通りで、吉祥寺方面を向きながら描いたものである。

ところで、昨年の夏に井の頭公園で写生をしたことがあった。その時、通りがかりの男性が話し掛けてきた。私が絵筆を止めずに会話をしながら描き続けているのを見た男性は、「よく話し中でも絵が描けますね」と言った。私にとっては普段からやっていることなので何ともないのだが、誰にでもできることではないのかもしれない。

以前、テレビで人との会話中に計算式を見ながら、暗算をしている男性を見たことがあった。これなどは誰にでもできることではなく、相当訓練をしないとできないのではないかと思う。人間の脳は右脳が図形や音楽、左脳が言語や文字に関連している、かつて本で学んだことがある。このことから、訓練をすることで別々のことを同時に行うことが可能になるのかもしれないと思っている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元 JR 東日本国際課勤務。JR 東日本絵画クラブ初代事務局長。これまで JR 東日本の駅の絵を 1000 点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR 東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで 50 カ国以上を訪れ、個展も 30 回を超える。

展覧会 「大須賀一雄 透明水彩の世界展」 2022年7月14日（木）～7月20日（水） 東急百貨店吉祥寺店8階アートサロンで開催